

癒しの客

瀬川 武美

その客は突然やって来た。熱中症被害が連日のニュースになっていた頃のある昼下がりである。

庭の二所に居て、キョロキョロしている。警戒しているようだ。安全を確認したのか、小刻みに動き出した。石鉢の方へ進んで行く。その距離約1メートル。そして、高さ30センチほどの石鉢をチョイチョイと登り詰めて縁で止まった。間髪を容れずにキョロキョロと頭を左右に回転させた。次の瞬間、頭を鉢に突っ込んだ。頭を上げると、又、キョロキョロしてから鉢に突っ込む。二度三度、石鉢の上でこの動作を繰り返して去って行った。

次の日の昼下がり、その客は昨日の場所に来ていた。昨日と同じ行為を営んで去って行った。

また次の日の昼下がり、その客はやって来て、為すべきコトをして去って行った。

三日も続くと、心待ちにするものである。その客に「みずき」と名付けて、四日目から待つようになった。その客とは一羽の雀である。水を飲むに來ることから「みずき」と名付けた。

だが、「みずきちゃん」と声をかけても全く気付いてくれない。気付かれたらお仕舞いなので小声ではあるが。連日見詰められているのだから、気配ぐらい感じてくれてもよさそうなものだ。もつとも、硝子戸一枚を隔てているので聞こえないし、不動の姿勢で観

ているので気配すら感じないのだろう。しかし、こちらはアイ・コンタクトを取りたいのだ。自分が見詰められていることを知らないで、安心しきっているようだ。

「みずきちゃん」とのこうした日課は、お盆の数日前頃から続いた。

ところが、お盆が明けた頃から「みずきちゃん」は来なくなった。何だか寂しい。

雀といえば、稲の害鳥として人間に追い払われてきたので、人への警戒心が強くて人を見るとすぐ逃げる、と言われていた。それなのに、よくぞ我が家の庭に飛来してくれたことだ。それも、森から迷うことなく、「直線に」。近くに大池があるのに、拙宅の25センチ四方の石鉢の水を飲みに来てくれたのが嬉しい。礼儀をわきまえているのか、それとも独りぼつちなのか、はたまた水泥棒のつもりか知らないが、必ず一羽で来た。

「みずきちゃん」が来なくなってから、熱中症被害のニュースも流れなくなった。異常な暑さは、思いがけない客との出会いをもたらしてくれた。雀は見栄えのしない「チュンチュン」とうるさい鳥、という程度の認識しかなかったが、小さい頭でキョロキョロしたり、小刻みにホッピング(両足で飛び跳ねる)する仕草は愛らしい。

『つづら』はいらないから、来年も来てね。みずきちゃん！

